

## 事業評価書

補助事業名	通信施設:共同受信施設改修事業				
補助事業者名	狭山市長				
実施場所	狭山市広瀬東2-32-33他8箇所				
補助事業の成果の目標	<p>狭山市では、入間飛行場に飛来する航空機を原因とするテレビ受信困難地域において、都市型CATV対応施設整備により、受信困難地域のテレビ視聴環境を整備してきており、今後も引き続き当該施設を維持していくことが求められている。</p> <p>しかし、当該施設を構成する鋼管柱及びケーブルの一部においては老朽化が著しく、平成25年9月に鋼管柱が腐食により倒れたことで、家屋の外壁を直撃し、損傷を与えた。その後、鋼管柱の状態調査を実施したところ、鋼管柱の腐食が確認されたことから、順次、鋼管柱の撤去及びケーブルの張替を実施する。</p> <p>撤去後の鋼管柱の新設は行わず既存の電柱に共架することを基本とすることで、民地、住宅密集地に存在する鋼管柱が無くなり、住民の安全の確保を図ると共にケーブルの張替により、視聴環境の維持を図る。</p> <p>【参考指標】 更新を必要とする鋼管柱 24本(令和3年7月時点) 更新の経過 H28 87本、H30 94本、R01 46本、R02 76本</p>				
補助事業の内容	鋼管柱の撤去等及びケーブルの張替				
補助事業の始期及び終期	平成29年度から令和3年度				
事業費及び交付金額 (総事業費)		令和2年度 以前	令和3年度	令和4年度 以降	計
	事業費	円 81,512,538 (86,888,604)	円 2,281,400 (2,508,000)	円 0	円 83,793,938 (89,396,604)
	交付金額	円 72,758,000	円 2,000,000	円 0	円 74,758,000
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>〔補助事業の成果及び評価〕 周辺住民に聞き取り調査を実施した結果、改修前は鋼管柱が設置されていたことについて、特になにも感じていなかったとの意見があったが、改修工事後には景観が良くなったという回答が得られたため、住民の生活環境の改善が図られたと判断する。また、視聴環境に関して悪化したとの意見は無かったことから、視聴環境は維持できたものと判断する。</p> <p>〔地域住民への周知の実施状況〕 基地周辺対策を示した「狭山市の基地対策」及び市公式ホームページに掲載 住民へのアンケート調査用紙に記載</p>				
事業の改善措置及び今後の対応	無				
事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無				

## 事業評価書

補助事業名	消防に関する施設:消防ポンプ自動車購入				
補助事業者名	狭山市長				
実施場所	狭山市大字青柳475				
補助事業の成果の目標	<p>消防組織法第9条において、市町村に消防団の設置が義務付けられているなかで、総務省消防庁から告示された「消防操法の基準(昭和47年消防庁告示第2号)」を満たす必要があり、平成14年2月に配備した狭山市消防団第4分団第2部の消防ポンプ自動車等が狭山市消防団消防自動車等の更新計画に基づく車両更新期間(18年)を満了していることから、車両の更新を行い、地域の防災力を低下させることなく維持することを目標に、地域住民の安心・安全な生活環境を整備する。</p> <p>【参考指標】  第4分団第2部団員数(令和3年4月1日現在)  18名  令和2年度における水火災・台風警戒等への第4分団第2部の出動件数  7件  令和2年度における第4分団第2部の出動延べ人員数  628名</p>				
補助事業の内容	消防ポンプ自動車(CD-I型)購入				
補助事業の始期及び終期	令和3年9月30日 から 令和4年2月25日まで				
事業費及び交付金額		令和2年度以前	令和3年度	令和4年度以降予定	計
	事業費	円 —	円 20,335,060	円 —	円 20,335,060
	交付金額	円 —	円 18,800,000	円 —	円 18,800,000
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>【補助事業の成果及び評価】  消防ポンプ自動車を購入(更新)したことで、新たに後方確認装置を取り付けたことやトランスミッションがマニュアルからオートマチックに変わり、団員が運転中に抱える不安が解消されるとともに、より性能が優れた消防ポンプを搭載したことで、消防水利から遠く離れた火点までスムーズに放水が行えるようになり、現場到着から放水までの初期消火活動までにかかる時間の短縮など、操作性がより向上した。  このことにより、地域の防災力・消防力の充実強化が図られ、災害を最小限に抑えることが可能な、安全安心な生活環境を整備することができた。</p> <p>【地域住民への周知の実施状況】  消防ポンプ自動車左右側面に、防衛省の交付金を活用して整備した旨を明記。基地周辺対策を示した「狭山市の基地対策」に掲載。  狭山市公式ホームページ及び狭山市消防団ホームページに掲載中。  令和4年度中に発行する狭山市消防団広報誌に掲載し、市内全地区回覧を実施予定。</p>				
事業の改善措置及び今後の対応	狭山市総合計画実施計画に基づき、非常備消防機械施設等整備事業として消防自動車の更新事業を実施していく。				
事業の評価に際しての第三者機関の有無	無				

## 事業評価書

補助事業名	交通施設:幹第32号線外2			
補助事業者名	狭山市長			
実施場所	狭山市 新狭山1丁目外3 地内			
補助事業の成果の目標	<p>本市では、幹線道路の舗装の劣化に対して、計画的に舗装補修工事を行い、交通の安全性、生活環境の改善を行っている。</p> <p>当路線は、川越狭山工業団地の外周部に位置し、西武新宿線「狭山市第13号踏切」を含む幹線道路であり、国道16号及び県道126号線から工業団地へのアクセス及び迂回道路として昼夜を問わず大型車の交通量が多い重要な路線である。</p> <p>また、都市計画道路川越駅南大塚線の開通もあり工業団地周辺を含めた交通量が増加しているため、舗装の劣化による破損が著しく、車両走行の安全性の低下や、交通騒音・振動等に伴う生活環境の悪化等が生じている。</p> <p>そこで、補助事業を活用し舗装を打ち替えて平坦性を確保することで、交通の安全性や地域住民の生活環境の向上を図る。</p> <p><b>【参考指標】</b>  対象地区人口/世帯数 (11,038人/5,827世帯)  ※令和3年4月1日現在</p>			
補助事業の内容	工事延長:計L=376m (幹31号線 L=200m、幹59号線 L=176m) 道路幅員:幹31号線 W=8.0m、幹59号線 W=9.0m 舗装工一式			
補助事業の始期及び終期	令和元年度から令和3年度			
事業費及び交付金額 ※( )は総事業費		令和2年度 以前	令和3年度	計
	事業費	円 50,686,900 (53,564,500)	円 19,527,200 (24,398,000)	円 70,214,100 (77,962,500)
	交付金額	円 44,000,000	円 17,000,000	円 61,000,000
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p><b>【補助事業の成果及び評価】</b>  当初の計画通り事業が完了したこと及び地域住民等に対するアンケートの結果、路面の平坦性、騒音及び振動等が改善され、満足しているとの声が寄せられたこと、また継続的な整備要望もあり、補助事業への好印象と期待が得られ成果が果たせたと判断する。</p> <p><b>【地域住民への周知の実施状況】</b>  工事のお知らせ文書及び工事看板、並びに基地周辺対策を示した「狭山市の基地対策」及び狭山市公式ホームページに防衛省交付金活用事業であることを掲載。</p>			
事業の改善措置及び今後の対応	令和元年度より3年間で956mを整備し完了することができた。 アンケートの意見・要望では、工事による渋滞を懸念する声があった反面、静かな工事であった、走りやすくなったなど、継続的な整備要望もあり、現在の事業方針が好意的に評価されていると判断できる。			
事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無			

## 事業評価書

補助事業名	交通施設:幹第18号線				
補助事業者名	狭山市長				
実施場所	狭山市 大字水野・大字堀兼 地内				
補助事業の成果の目標	<p>本市では、既設幹線道路の舗装の劣化に対し、計画的に舗装補修工事を行い、交通の安全性、生活環境の改善を行っている。</p> <p>当路線は、主要地方道所沢狭山線から県道所沢堀兼狭山線を結び、隣接する入間市や川越市へ抜ける幹線市道として重要な路線である。</p> <p>また、近年では、交差する草刈街道が川越狭山工業団地の物流ルートとして利用されることにより大型車交通量の増加したことに伴い、当路線の交通量も増加したことから、舗装劣化による破損が著しく車両走行の安全性の低下や、交通騒音・振動等に伴う地域の生活環境の悪化等が生じている。</p> <p>そこで、補助事業を活用し舗装を打ち替えて平坦性を確保することで、交通の安全性や地域住民の生活環境の向上を図る。</p> <p><b>【参考指標】</b> 対象地区人口/世帯数(15,091人/6,710世帯) ※令和3年4月1日現在</p>				
補助事業の内容	工事延長:L=370m 道路幅員:W=5.5m 舗装工一式				
補助事業の始期及び終期	令和3年度から令和5年度				
事業費及び交付金額			令和3年度	令和4年度以降	計
	事業費	円	円	円	円
	交付金額	円	円	円	円
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p><b>〔補助事業の成果及び評価〕</b> 今年度より事業が開始し、地域住民等に対するアンケートの結果、路面の平坦性、騒音及び振動等が改善され、満足しているとの声が寄せられたこと、また継続的な整備要望もあり、補助事業への好印象と期待が得られたことから、成果目標が達成できたと判断する。</p> <p><b>〔地域住民への周知の実施状況〕</b> 工事看板、並びに基地周辺対策を示した「狭山市の基地対策」及び狭山市公式ホームページに防衛省交付金活用事業であることを掲載。</p>				
事業の改善措置及び今後の対応	<p>今年度より3年間の事業であり、今後も路線として劣悪な路面状況が続くため、舗装の打替えにより地域の環境改善に努める。</p> <p>アンケートの意見・要望では、部分的な補修ではなく、路線として修繕を行ったことに対する評価が得られており、継続的な整備要望もでていることから、現在の事業方針が良好な評価をされていると判断できる。</p> <p>については、今後も地域住民の意見・要望を把握しながら周辺への影響を考慮した上で事業を推進し、地域住民の生活環境の向上を図る。</p>				
事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無				

## 事業評価書

補助事業名	教育、スポーツ及び文化に関する事業:小学生学習支援事業				
補助事業者名	狭山市長				
実施場所	狭山市内小学校(15箇所)				
補助事業の成果の目標	<p>本市における小学生の学習課題の一つに算数科の基礎基本の定着があり、各種学力調査等において伸び悩んでいる状況が毎年結果として出ている。</p> <p>そこで、外部の専門講師によって学校の学習指導を補完するとともに、学習の支援をすることにより、基礎的基本的な内容を身に付けさせ、学力の向上を促す。</p> <p>これにより、児童の学習への興味・関心をさらに高め、分からないところや学習の躓きを無くしていくとともに、算数科への自信をつけさせることで、参加する児童一人一人の学力の定着及び向上を図る。</p> <p>【参考指標】 市内小学校第4学年の児童数(1,051人:令和3年4月3日現在)</p>				
補助事業の内容	学校の授業以外で児童が学習する機会を設け、児童の学習への興味・関心をさらに高め、分からないところや学習の躓きを無くするため指導・支援をしていく。				
補助事業の始期及び終期	令和元年度から令和5年度				
事業費及び交付金額( )は総事業費		令和2年度以前	令和3年度	令和4年度以降	計
	事業費	円 15,408,008 (15,801,808)	円 3,510,100 (5,976,080)	円 23,487,112	円 42,405,220 (45,265,000)
	交付金額	円 15,000,000	円 3,300,000	円 20,700,000	円 39,000,000
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>〔補助事業の成果及び評価〕</p> <p>算数の授業内容が分かるかについては、事前事後アンケートの結果において「よく分かる」「だいたい分かる」と回答した児童が67%から82%に向上、算数科の勉強に自信があるかについては、事前事後アンケートの結果において「自信がある」「だいたい自信がある」と回答した児童が56%から68%に向上した。</p> <p>事前事後アンケートの結果の変容から、参加した児童は本事業で分かる喜びを味わい、算数に対する意欲や自信が向上したことが伺える。</p> <p>事前事後テストの変容をみると、事前テストの平均点が78点、事後テストの平均点が88.8点となり、10.8点向上した。</p> <p>授業以外の1日の学習時間についても、1時間以上学習している児童が事業前の48%から事業後53%に増加し、学習時間が1時間未満の児童は、事業前52%から事業後47%に減少した。</p> <p>保護者のアンケートからも、「お子さまは算数の勉強に自信がありますか」において「とても自信がある」と答えた保護者が事前11名だったのに対し、事後43名と4倍に増えており、割合も「とても自信がある」「自信がある」が事業前42%から75%に増加した。それに対し、「自信がない」「あまり自信がない」と答えた保護者は71名から34名と半減した。このことから、学習支援事業で満足感を得られた児童の姿が、帰宅後に保護者にも伝わったことが考えられ、保護者の本事業に対する肯定的な評価につながったと考えられる。</p> <p>少人数で指導・支援を行う小学生学習支援事業により、児童の学習意欲がこれまで以上に高まり、分からないところや学習のつまづきを無くすことができたと考えられる。また、算数への自信が付き、一人一人の学力の定着と学習の習慣化が図られたと判断する。</p> <p>〔地域住民への周知の実施状況〕</p> <p>児童及び保護者向けの募集案内、狭山市公式ホームページ、基地周辺対策を示した「狭山市の基地対策」に特定防衛施設周辺整備調整交付金を活用している旨を掲載</p>				
事業の改善措置及び今後の対応	無し				
事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無し				

## 事業評価書

補助事業名	医療に関する事業:予防接種助成事業									
補助事業者名	狭山市長									
実施場所	狭山市内医療機関									
補助事業の成果の目標	<p>予防接種法に規定されている麻疹(はしか)・風疹(三日はしか)は感染力の強い疾病であり、また、ジフテリア、百日せき、急性灰白髄炎、破傷風は感染すると重篤になる場合が多い疾病である。これに対して、最も有効な対策は発生の予防であり、その手段として、予防接種により免疫を獲得することが重要とされている。</p> <p>本市では、予防接種に要する費用を負担することなく、接種を受けられる環境を整備するとともに、市民に向けて適切な情報提供を行っており、対象者の9割以上が接種を受けている状況である。そこで、本事業を継続して実施し、ジフテリア、百日せき、急性灰白髄炎、麻疹(はしか)、風疹(三日はしか)、破傷風の発生及びまん延の防止に取り組むことで、市民の健康増進を図る。</p> <p>【参考指標】  令和3年度麻しん、風しん接種対象者数:1,905人(令和3年12月31日時点)  令和3年度四種混合(ジフテリア、百日せき、急性灰白髄炎、破傷風)接種対象者:866人(令和3年12月31日時点)</p>									
補助事業の内容	ジフテリア、百日せき、急性灰白髄炎、麻しん、風しん、破傷風に係る予防接種費の助成									
補助事業の始期及び終期	基金の造成:平成23年度から令和7年度 基金の処分:平成24年度から令和8年度									
事業費及び交付金額	基金造成額(A)					基金 処分額 (B)	基金 残額 (A)-(B)	継続事業 に要した額		
	年度	交付金	市町村 費等	その他	運用益				計	円
		円	円	円	円	円	円	円	円	円
	23	62,216,000				62,216,000		62,216,000		
	24	72,468,000				72,468,000	40,000,000	94,684,000	46,154,905	
	25	56,009,000				56,009,000	25,000,000	125,693,000	26,070,500	
	26	25,000,000				25,000,000	25,000,000	125,693,000	25,407,839	
	27	10,000,000				10,000,000	24,000,000	111,693,000	24,437,997	
	28	29,749,000				29,749,000	24,000,000	117,442,000	24,657,396	
	29	10,086,000				10,086,000	23,000,000	104,528,000	23,485,058	
	30	1,900,000				1,900,000	40,000,000	66,428,000	52,145,890	
1	10,000,000				10,000,000	42,000,000	34,428,000	53,716,461		
2	28,842,000				28,842,000	50,000,000	13,270,000	53,424,066		
3	76,330,000				76,330,000	49,500,000	40,100,000	49,854,871		
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	〔補助事業の成果及び評価〕 麻疹・風疹及び四種混合予防接種助成事業は、令和3年度の接種対象者の9割以上が予防接種を受けていることから、市民の健康増進が図られたと判断する。 〔地域住民への周知の実施状況〕 「健康カレンダー」、狭山市公式ホームページ、基地周辺対策を示した「狭山市の基地対策」に特定防衛施設周辺整備調整交付金を活用している旨を掲載									
事業の改善措置及び今後の対応	無									
事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無									

## 事業評価書

補助事業名	教育、スポーツ及び文化に関する事業:中学生学習支援事業								
補助事業者名	狭山市長								
実施場所	狭山市内中学校(8箇所)								
補助事業の成果の目標	<p>本市の中学生の学力は、平成25年度までは全国及び埼玉県の平均と同程度であったが、平成26年度及び平成27年度については下回ってきているという状況にあり、また、家庭学習の時間も全国及び埼玉県に比べ短いという結果が出ている。これらを踏まえ、中学生の確かな学力の定着及び向上が課題となっている。</p> <p>そこで、学校の学習指導を補完するとともに、家庭学習の励行を促すため、各中学校区毎に生徒が学校の授業以外で学習できる環境を整え、多くの生徒の参加を促す。これにより、生徒の学習への興味・関心をさらに高め、分からないところや学習の躓きを無くしていくとともに、多くの生徒が家庭学習の習慣を身につけることで、参加する生徒一人一人の学力の定着及び向上を図る。</p> <p>【参考指標】 市内中学校の生徒数:3,413人(平成30年1月20日現在)</p>								
補助事業の内容	学校の授業以外で生徒が学習する機会を設け、学習活動を支援する。								
補助事業の始期及び終期	基金の造成:平成27年度から平成29年度 基金の処分:平成28年度から令和5年度								
事業費及び交付金額	基金造成額(A)					基金処分額(B)	基金残額(A)-(B)	継続事業に要した額	
	年度	交付金	市町村費等	その他	運用益				計
		円	円	円	円	円	円	円	円
	27	16,106,000				16,106,000	0	16,106,000	0
	28	14,000,000				14,000,000	7,470,000	22,636,000	7,476,300
	29	14,000,000				14,000,000	6,500,000	30,136,000	6,775,054
	30	0				0	6,400,000	23,736,000	6,505,763
	1	0				0	7,000,000	16,736,000	7,233,818
	2	0				0	1,400,000	15,336,000	1,423,400
3	0				0	5,000,000	10,336,000	6,160,660	
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>〔補助事業の成果及び評価〕 令和3年度については、延べ参加者数が2,557名(夏季1,789名、冬季768名)であり、冬季集中講義のみ実施であった令和2年度の延べ参加者数667名に対し、1,890名(冬季のみでは101名)増加した。講義後のアンケートでは「授業は分かりやすかったですか」との質問に対し8割以上が分かりやすかったと回答しており、「授業が分かりやすかった」、「復習ができた」、「苦手が克服できた」等の意見が寄せられた。このことは、『分からないところや学習の躓きを無くしていくとともに、多くの生徒が家庭学習の習慣を身につけることで、参加する生徒一人一人の学力の定着及び向上を図る』という、本事業の目的に対する成果として捉えることができる。</p> <p>〔地域住民への周知の実施状況〕 生徒及び保護者向けの募集案内、狭山市公式ホームページに特定防衛施設周辺整備調整交付金を活用している旨を掲載</p>								
事業の改善措置及び今後の対応	無								
事業の評価に際しての第三者機関の活用の有無	無								